

令和2年 4月11日 仙台市若林区中央市民センター

仙白園プロジェクト

通信No. 18

「仙白園プロジェクト・人」は、若者を中心に、仙台白菜などを畑で育てる活動から発展して、様々な人たちと交流しながら、参加者の活動を社会・地域につなげることを目指しています。



ハクサイ

令和2年度は、だれもが東京オリンピックの年かと思っていたところですが、年末からコロナウイルス流行により、全世界的に危機的な状況に陥っています。感染予防のために、不要不急の外出を控える取り組みにより、3月より5月いっぱいまで市民センター事業の大部分を停止する方向です。仙白園プロジェクトも畑づくりや毎年恒例の「白菜のルーツを探る旅」も中止となりました。当面の活動ですが、職員の方で、畑の維持管理を行い、イベント開催に向けて準備を進めていきたいと思ひます。

仙白園の近くの桜は満開で、時折訪れる散歩の方が、足を止めて眺めています。イベント自粛を受け、今週3日間をかけて、畑づくりに取り組みました。電動耕運機で全体を耕した後、うね作りを行い、じゃがいも・枝豆の植え付けを行いました。来週は、きゅうり・とまと・さつまいも、そして、白菜を植える予定です。今年初めて、春植えの白菜に取り組んでみようと思ひます。どれくらいうまくいくのかわかりませんが、お近くにお立ち寄りの際には、畑の観察してみてください。



どの桜の木も、満開です。



松島新二号を植えてみます。

うまくできるかな？



きたあかり、メイクイン、男爵の3種類のジャガイモを植えました。



若林区中央市民センター「仙白園プロジェクト」
Tel: 022-282-1173

仙白園プロジェクト

通信No. 19



ハクリン

「仙白園プロジェクト・人」は、若者を中心に、仙台白菜などを畑で育てる活動から発展して、様々な人たちと交流しながら、参加者の活動を社会・地域につなげることを目指しています。



ハクティー

みなさんいかがお過ごしでしょうか。自粛のゴールデンウィークが過ぎて1週間が経ちました。なかなか先の見通せない状況がこれからもしばらく続きそうです。

4月に、じゃがいも・枝豆・ミニトマト・きゅうり・さつまいもを植え付けてから、1か月が経ち、ずいぶんと大きく育ってきました。

植え付けしたじゃがいもが芽を出し、大きく茎をのぼしています。今回植え付けをした「きたあかり」、「メイクイン」、「男爵」の3種類とも生育には多少違いはありますが、10～15cmほどに生長しています。

ミニトマトも生長し、買ったときは15cmほどだった背丈が、45cmほどに大きくなり、早いものでは、花を咲かせているものもあります。枝がずいぶんと増えてきているので、わき芽を取り、形を整えたり、茎が折れないように支柱を立てて結びつけたりしています。

今年は、春白菜を育ててみよう、苗を育てているところです、うまくいくかどうかは乞うご期待です。お楽しみに！



ミニトマトの花が咲きました。



じゃがいもも大きく伸びています。



枝豆の本葉も大きくなりました。



ハロウィンズスイート！？さつまいも？

仙白園プロジェクト

通信No. 80



ハクラン



ハクタイ

「仙白園プロジェクト・人」は、若者を中心に、仙台白菜などを畑で育てる活動から発展して、様々な人たちと交流しながら、参加者の活動を社会・地域につなげることを目指しています。

今年度初めての畑の活動&サイダープロジェクト本格始動！

今年に入ってから、コロナウイルス感染防止のために、仙白園の事業を行うことができませんでした。6月13日(土)に今年度初めての仙白園・畑の整備に取り組みました。活動内容は、草取りをして、その後、地面から顔を出しているじゃがいもに、土をかけたり、きゅうりを収穫したりする作業を行いました。4月に植えたジャガイモや枝豆の生長もさることながら、雑草の伸びも著しく成長していたので、みんなで畑をきれいにすることができました。まだまだ、コロナウイルスの感染が心配される場所ですが、メンバーのみなさんと顔を合わせることができ、ほっと一安心したところです。

若者を中心に、ネットのラインなどを通じて秘かに進行中の「サイダープロジェクト」の話し合いは行っていましたが、顔を合わせての話し合えるということは、本当にいいなと感じる今日この頃です。畑の活動とは別に、進行中の若者事業「サイダープロジェクト」を進めるにあたり、サイダーの試飲会を行いました。今回の試飲では、「ずんだ味」「牛タン味」のサイダーの試飲を行いました。仙白園のサイダープロジェクトで作るサイダー味を決める大事な試飲会でしたが、一瞬で、「普通のサイダー味がいい！！」と参加者全員一致で決まりました。どうして決まったか理由を知りたい方は、次回の仙白園で、体験してもらいたいと思います。お楽しみに！

次回7月19日の収穫祭に向けて、じゃがいもやとまとが夏の暑さに負けないで、さらに大きく生長するようにお世話していきたいです。

※「サイダープロジェクト」とは、仙白園の若者を中心に、新商品のサイダーを作り、売上金の全額を寄付するというもの。



ハクタイ

仙白園プロジェクト

通信No. 81



ハクリン

「仙白園プロジェクト・人」は、若者を中心に、仙台白菜などを畑で育てる活動から発展して、様々な人たちと交流しながら、参加者の活動を社会・地域につなげることを目指しています。



ハクティーン

7月18日(土)に4月に植えた3種類のジャガイモ(男爵, メークイン, キタアカリ)と枝豆, きゅうりとミニトマトを収穫する仙白園プロジェクトの「夏の収穫交流祭」を行いました。チャイルドボランティア(チャボ)のメンバーが11人, ジュニアリーダーが6人, 仙白園プロジェクトから9名の参加があり, 夏の収穫を楽しみました。

朝から小雨が降る天気でしたが, 参加者全員で, 一生懸命に土を掘り返しました。7月に入ってから, 毎日のように雨模様だったので, じゃがいもの成長が若干足りなかったかなという感じでしたが, 土の中から子どもの握りこぶしくらいのじゃがいもをたくさん見つけることができました。「去年は, ものすごく暑かったけれど, 今年は涼しいね。」など, 昨年も参加している子の感想が聞かれました。30分ほどで, 買い物かご10個分ほどのじゃがいもを収穫することができました。



雨が降っても大丈夫!



たくさんじゃがいもを見つけるぞ!



かごがいっぱいだ!



きれいに汚れを落とそう!

掘ったジャガイモをチャボのみんなで袋詰め作業を行いました。1袋10個ずつ入れて, 50袋ほど作りましたが, それでも, まだまだ残るくらいじゃがいもを収穫することができました。昨年も参加したチャボのメンバーからは「去年よりもたくさん収穫できたね。来年もたくさん収穫できるといいね。たくさんお土産ができた。」と, 喜びの感想が聞かれました。例年だと, 収穫したじゃがいもをその場で

焼いて食べたり、お約束の焼きマシュマロをしたりと、食べてみんなで収穫を喜ぶという場面があったのですが、今年は、コロナウイルス感染防止のために実施しなかったので、チャボのメンバーからは、「来年は、焼いて食べたい。」とリクエストされました。来年は、何とか叶えてあげられたらいいと思います。



ジャガイモの仕分け作業の後は、白菜の種まきをしました。1mmくらいの小さい種なので、種まきがしづらそうでしたが、今回、「松島新2号」、「松島純2号」、「郷秋」という品種の白菜の種をまきました。

1日も早くコロナウイルスの状況が収束し、次のイベントが実施できるのを楽しみにしている参加者もいました。イベントの最後は、「ハクティー」のかけ声で、お決まりの記念写真を撮りました。参加者全員が笑顔になれるよい収穫祭になりました。



ハクティー

「ハクティー！」コロナと曇り空を吹き飛ばす
参加者全員の笑顔の花が咲きました。



仙白園プロジェクト

活動NO. 50 夏編



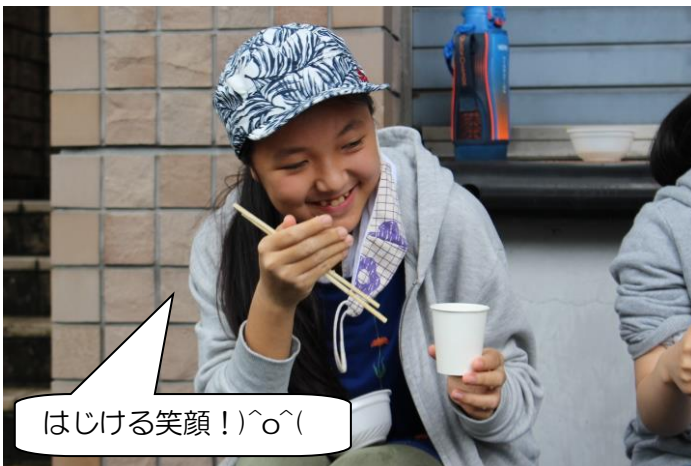
ハクリン

「仙白園プロジェクト・人」は、若者を中心に、仙台白菜などを畑で育てる活動から発展して、様々な人たちと交流しながら、参加者の活動を社会・地域につなげることを目指しています。



ハフティー

仙白園・畑と同時進行中の「サイダープロジェクト」もちょっとだけ進めました。今回は、ご当地サイダーの試飲会でした。



今回から仙白園参加の若者と地域の方々と宮城で売られている「ずんだ味」・「牛タン味」・「塩味」・「イチゴ味」・「メロン味」など、10種類のサイダーを試飲しました。

「えっー、微妙。」「これって、罰ゲームなの。」「これは、おいしい。」など、味によってさまざまな感想が聞かれました。

今回のサイダープロジェクトでは、普通のサイダー味で、作ります。参加している学生たちの意見で「休みなサイダー」という名前に決めました。今後、デザインやメッセージなど、どんどん意見を出し合いながら製作を進めていきたいと思っています。

なかなか集まって話し合うことができず、LINEで連絡を取り合いながらの作業ですが、安全第一で、活動を進めて行ければと思います。

ジュニアリーダーの中高生でも、関心がある人たちがいれば、参加してもらえればいいなと思います。

たくさんみなさんのご意見をお待ちしています。



令和2年8月29日 仙台市若林区中央市民センター

仙白園プロジェクト

通信No. 82



ハクリン

「仙白園プロジェクト・人」は、若者を中心に、仙台白菜などを畑で育てる活動から発展して、様々な人たちと交流しながら、参加者の活動を社会・地域につなげることを目指しています。



ハクティ

8月29日（土）に、仙台農業園芸センターにて「仙白白菜プロジェクト」を行いました。今年で4年目（夏の植え付け、秋の収穫）となる取り組みは、農業園芸センターがリニューアルオープンをした平成29年から、この活動を行ってきました。養種園発祥の仙台白菜を、縁あって、仙台農業園芸センター、明成高等学校の高橋先生、若林区中央市民センターの3者で地域にPRする機会を設けています。今回は、コロナウイルス感染防止のため、人数制限を設けたこと、広報活動を行っていないこともあり、地域にお住まいの方々25名の参加でしたが、何とか楽しく活動を進めることができました。

イベントでは、明成高校の高橋先生より、白菜の由来についてお話をいただきました。日本における白菜の歴史が、100年ほどしか経っていないということを伺うと、参加者の中からは、「まだ、新しい野菜なんだ。」という驚きの声が聞かれました。もっともっと、たくさんの方々に、仙台白菜の歴史について知ってもらい、愛着を持って仙台白菜を食べてもらえるように、PRしていければと思います。

イベントの後半では、参加者全員で、8月になってから種まきをした白菜の種（松島純2号・秋の祭典）が10cmほどに生長した白菜の苗の植え付けを行いました。気温が高く暑かったので、参加者全員大粒の汗をかきましたが、1人10株くらいずつ植え、無事をイベントを終了することができました。

11月の収穫イベントでは、丸々と大きく育った白菜を収穫することができればと思います。そのころには、人数制限がなく、たくさんの方々に参加してもらえればと思います。



仙台白菜は、100年ほど前に、日本にやってきた野菜です！

仙白園代表です！



密にならないように！

大切に育ててくださいね！おいしい白菜になりますよ！

令和2年 9月 5日 仙台市若林区中央市民センター

仙白園プロジェクト

通信No. 83



「仙白園プロジェクト・人」は、若者を中心に、仙台白菜などを畑で育てることを通して、様々な人たちと交流しながら、参加者の活動を社会・地域につなげることを目指しています。



ハクタイ

9月5日(土)の活動は、仙白園メンバーとチャイルドボランティアのメンバーと社会教育実習生に協力してもらい、仙台白菜の原種である松島純2号と松島新2号、秋の祭典という品種を3種類の植え付け作業を行いました。仙白園メンバーの指導の下、みんなで白菜の苗と仙台地大根、仙台雪菜の種を植えることができました。短時間の活動ではありましたが、チャボの子どもたちも、3年連続お手伝いをしている子もいて、慣れた手つきで植えたり、協力して水やりを行ったりすることができました。去年は、働いた後に、みんなで流しソーメンならぬ、たらいソーメンをおなかいっぱい食べる活動をしたのですが、今年は、コロナウイルス感染防止のため、食べる活動は実施しませんでした。来年こそは、実施できればと思います。

植えつけられた白菜は、12月ごろ収穫できるようになります。順調に収穫することができるように、大きく生長してほしいと思います。



教育実習のみなさんに、事前準備をお願いしました。



チャボのみなさんに、おいしい白菜になるように願いを込めて、植えてもらいました。



ハクタイ

今回、参加して下さったみなさん、ありがとうございました。冬に立派な白菜と大根が収穫できればと思います。

令和2年 9月 5日 仙台市若林区中央市民センター

仙白園プロジェクト

通信No. 84



ハクリン

「仙白園プロジェクト・人」は、若者を中心に、仙台白菜などを畑で育てる活動から発展して、様々な人たちと交流しながら、参加者の活動を社会・地域につなげることを目指しています。



ハクティー

今回も、仙白園・畑と同時進行中の「サイダープロジェクト」もちょっとだけ進めました。今回も前回に引き続き、ご当地サイダーの試飲を行いました。

じわりじわりと進行しているサイダープロジェクトでは、「休みなサイダー」という名前で作ろうということを決まっています。現在、「ハクティー」をモチーフにしたデザインと、みんなに伝えるべきメッセージなど、意見を出し合いながら製作していく予定です。



阿部さんの表情で読み取るサイダーの味!?

美味しいのかな?
それとも…!

サイダーには、みんなを笑顔にする魅力があるようです!

学生のみなさんにも、
子どもたちに配った
頑張った証の「ぶたさん
ぶよぶよボール」を
プレゼント!!
「ほしい人~!」
う~ん! 微妙!!

仙白園プロジェクト

通信No. 85



ハクリン

「仙白園プロジェクト・人」は、若者を中心に、仙台白菜などを畑で育てる活動から発展して、様々な人たちと交流しながら、参加者の活動を社会・地域につなげることを目指しています。



ハクタイ

11月7日(土)に、仙白園プロジェクトで前回降雨のために延期となった「サツマイモの収穫」を行いました。今回は、チャボの子どもたちの参加はありませんでしたが、楽しく活動することができました。

今年のサツマイモは、ハロウィンスイートという品種で、いもの中がオレンジ色で、とても甘みの強い品種を植えました。5月に5本植えた10cmほどのサツマイモの苗が、100倍以上の10メートルを超え、たくさんの葉を付けました。昨年同様、予定日には収穫できず、1か月遅れの収穫だったので、1つ1つが30cmを超えるラグビーボールのような大きなサツマイモが土の中からたくさん出てきました。今年は、コロナウイルス感染防止のため、その場で焼いて食べることは出来なかったのですが、来年こそは、みんなで秋の収穫をいただくことができればと思います。

それから、何と何とついにサイダープロジェクトのサイダーが出来上がりました。みんなで試飲会をしました。味は普通ですが、とても素晴らしい出来上がりになりました。たくさんの方に手に取ってもらえるように、PRしていきたいと思います。



いもは、どこだ〜!



大収穫だ!
どれも大物です!



オリジナルサイダー!
出来ました!PR頑張ります!



アエルで、販売会を予定しています!
ぜひみなさんオリジナルサイダーを味わってください!

仙白園プロジェクト

電話No. 86



「仙白園プロジェクト・人」は、若者を中心に、仙台白菜などを畑で育てることを通して、様々な人たちと交流しながら、参加者の活動を社会・地域につなげることを目指しています。

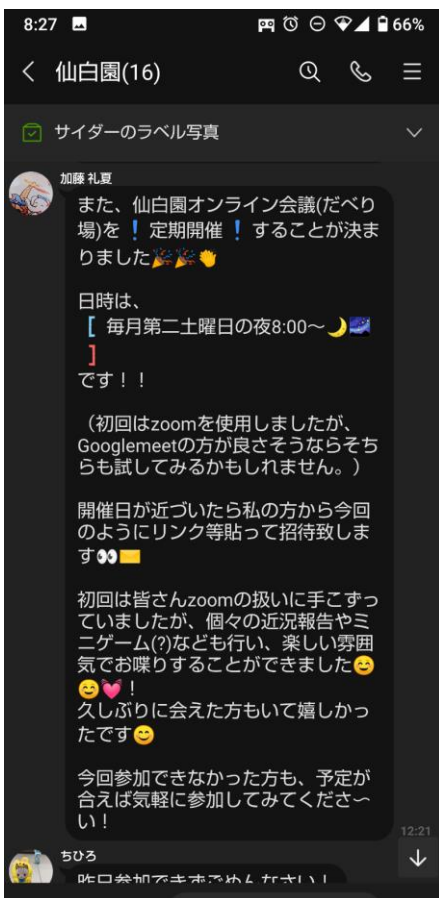
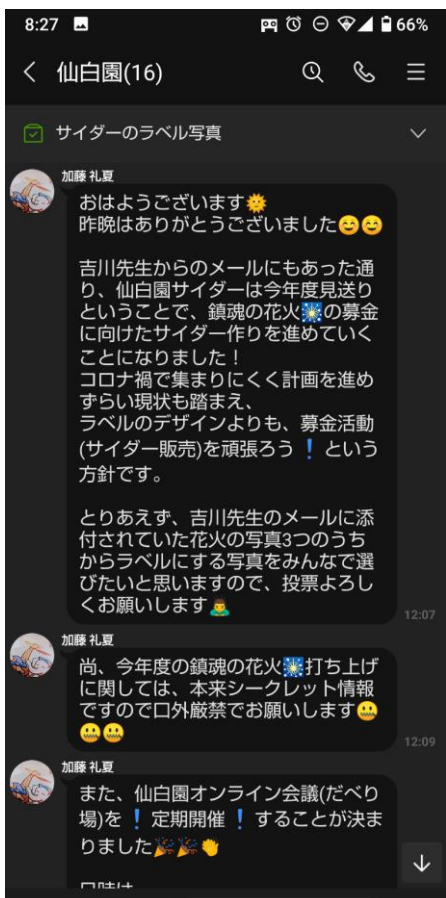
10月10日(土)に仙白園・ズーム会議を行いました。参加した学生のみなさんは、それぞれ自宅からパソコンを使っての参加でした。今年は、新型コロナウイルスの流行のため、活動が制限され、学生の多くが自宅からのweb通学のため、実際に顔を合わせて、話し合うことが少なくなっています。久しぶりに顔を合わせる学生も多く、新鮮な感じがしました。ラインとメールで、今年度新たに準備してきたサイダープロジェクトですが、実際に顔を合わせて話をすると、やはり、文章だけで進めているのとは違った親近感が沸きます。

今回は、「仙台・絆サイダー」という名前で、「鎮魂の花火」と医療関係者の方々を支援することができればということの確認を行い、ラベルの写真やサイダー屋さんとの打ち合わせの内容の確認を行いました。

プロジェクトについては、4月から話し合いを進めてきましたが、新型コロナウイルス感染防止のため、集まっての話し合いができず、思うように進んでいませんでした。

東日本大震災から来年の3月で、10年が過ぎるということで、「今年中に何とか、サイダーを完成させたいね。」と、計画を練り直した結果、若林区の六郷東部で行われている『鎮魂の花火』をモチーフにラベルの写真を使うことは出来ないかと考え、「いつまでも忘れないで繋がっている」という意味を込めて、「絆」という名前を付けました。『鎮魂の花火』の打ち上げの前までに完成して、募金活動を行うことができればいいね。」とみんなで確認しました。

今回の活動にご協力いただく「トレボン食品」では、次に作るサイダーが、今年最後の生産になるそうなので、何とか間に合って作ることができました。出来上がりが非常に楽しめです。たくさんの人たちに手に取ってもらい、この活動を応援してもらえればと思います。



仙白園プロジェクト

電話No. 87



ハクリン



ハクティ

「仙白園プロジェクト・人」は、若者を中心に、仙台白菜などを畑で育てることを通して、様々な人たちと交流しながら、参加者の活動を社会・地域につなげることを目指しています。

ついに、11月2日「仙台・絆サイダー」が出来上がりました。

11月14日（土）に仙白園・第2回ズーム会議では、前回のズーム会議を受け、10月16日に礼夏さんに代表で、「トレボン食品」との打ち合わせに行ってもらった報告と今後の活動について話し合いました。

打合せでは、トレボン食品の社長さん自らお話をいただきました。とても気さくな方で、「どのようにしたらたくさんの人に関心を持ってもらえるのか。」「市民センター事業の一環で製作するので、一般に売り出すというわけにはいかず、なかなか難しいところはありますが、学生みんなのアイデアを出し合えば、きっとたくさんの人たちに届くよ。」などアドバイスをいただきました。

後半の話し合いでは、どのようにしてたくさんの人たちに知ってもらえるのか活動の具体を話し合いました。「人通りの多いアエルなんかで売るのはどうかな？」という意見が出たので、「アエルのホームメイドマーケット」に出店してみることにして話し合いました。「どうやったら出店できるのかな。」「たくさん人は来るけれど、売れるのかな。」と意見が出ましたが、「まずは、やってみよう！」ということで、11月28日（土）に出店することを決めました。今後、出店に向けて、サイダープロジェクトをたくさんの方々に知ってもらえるように、PRのためのホームページを作成したり、区内の関係のところに、サイダーをPRしたりしていきたいと思ひます。

たくさんの方々に、関心を持っていただき、手に取ってもらえるように、準備していきたいと思ひます。

区役所のホームページです！ ⇒

区役所のホームページです！ ⇒



仙白園プロジェクト

電話No. 88



「仙白園プロジェクト・人」は、若者を中心に、仙台白菜などを畑で育てることを通して、様々な人たちと交流しながら、参加者の活動を社会・地域につなげることを目指しています。



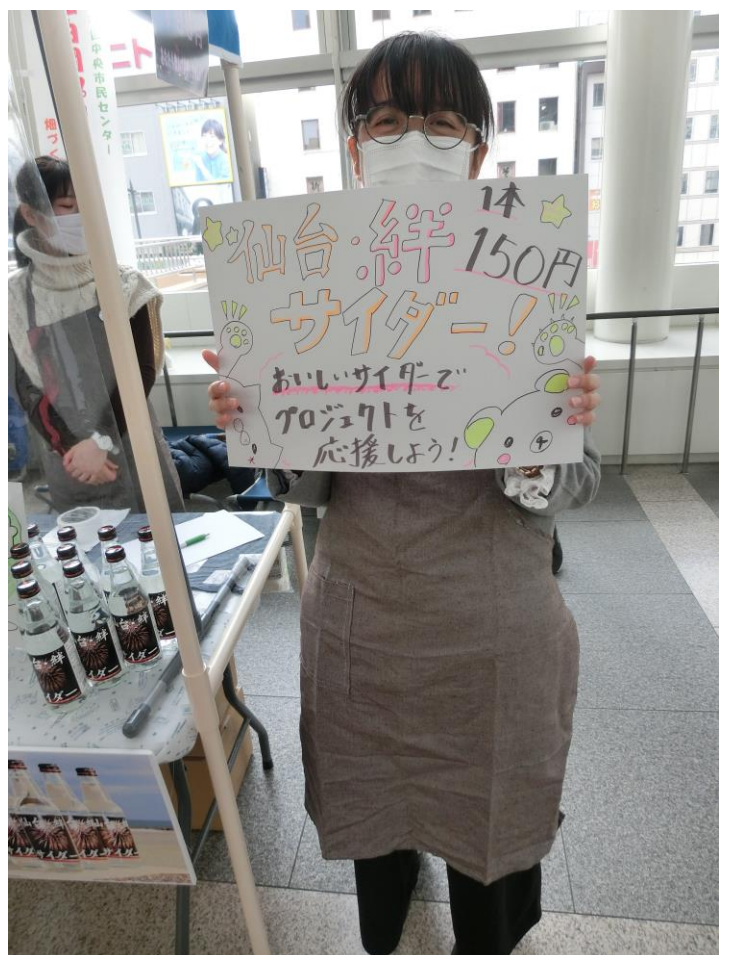
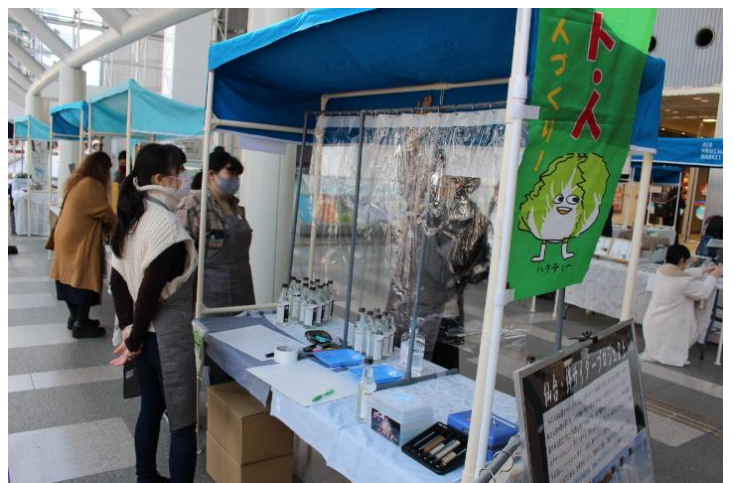
11月28日(土)に仙白園・「サイダープロジェクト in アエル」(アエルで会える)を行いました。先日出来上がった「仙台・絆サイダー」を全国区に押し上げる絶好の機会です。1000本限定で作った「絆サイダー」を多くの方に手に取っていただき、ご支援いただく活動も大詰めに差し掛かっています。2回のズーム会議とライン打合せを経て、準備を進めてきたアエルでのPRの機会で、何とか全部売り切りたいと、意気込んで当日のプロジェクトに臨みました。

朝早くから、アエルに集合し、開店準備に取り組みました。アエルで出店するのは、私たちのほか9つの出店がありました。みなさん、受け入れるための準備に余念がないようでした。何と言ってもコロナの感染対策が一番なので、私たちも出店の準備に1時間ほどかかりましたが、開店時間に間に合わせることができました。

学生の多くが、実際にものを売るという経験をしたことがなかった上に、市民センターNGキーワード「売る」などを入れずに、どんな風に声かけをしたらよいのかなど、アイデアをひねりながら、活動に取り組みました。また、午前中は、なかなか人通りが少なく、来客はいまひとつでした。

昼近くなると、人通りが増え、店を覗いてくれる人も増えてきました。青葉区中央市民センターの若者事業の参加者も応援に来てくれたので、「仙台・絆サイダーいかがですか？」の声もボリュームアップし、ちらほらと足を止めてくれる通行人の方が増えてきました。「募金お願いします！」であれば、たぶんたくさんの人たちが足を止めてくれるのにね〜。」など、話し合いながら、最初のお客さんが来てくれるのを待っていました。

最初のお客さんは、親子連れの家族の方たちでした。「頑張ってください!」と最後に一言いただいたのがとても印象的でした。学生全員そろっての「ありがとうございました。」の声にもとても力がこもっていました。見てくれている人たちがいるのだから、「もっともっと頑張らなければ!」と気を引き締めて、活動に取り組みました。



昼を過ぎると、立ち止まって2本、3本とまとめて、購入してくれる人の数が増えてきました。けれど、学生たちが思っていたように、常にお客さんが入るわけではなく、1人お客さんが来ると、10分、15分と間が空いて、次のお客さんが来るといった感じでした。「仙台・絆サイダープロジェクト」以外に出店していた人たちも、1人お客さんが来ると、1時間以上間が空くなど、「なかなか売れないんだな。」と、接客の難しさを実感していました。

途中で河北新報の記者の方にお越しいただき、新聞の取材をしていただきました。次の日の朝刊に、ばっちりと載せていただき、たいへんよいPRを行うことができました。

今年は、新型コロナウイルス感染症のために、たくさんの人たちが苦しんでいて、仙白園の活動自体も多くの変更をせざるを得ませんでした。だからこそ、若者たちにできることで地域の元気を呼び起こすきっかけとなれば、いいなと思います。朝早くから、準備したり、慣れない活動をしたりと、大忙しの1日でしたが、「学生たちの笑顔」で多くの人たちを笑顔にすることができたのではないかと思います。これからも、仙白園の活動を通して、地域を元気にしていきたいと思っています。

募金していただいたたくさんの方々、この場を借りて、お礼を述べさせていただきたいと思っています。

ありがとうございました！



仙台・絆サイダーPR
若者の企画「鎮魂の花火」資金に

東日本大震災からの復興を後押ししようと、仙台市若林区中央市民センターの地域づくり事業に参加する若者らが企画した「仙台・絆サイダー」のPRイベントが28日、同市青葉区のアエルであった。

絆サイダーは、トレボン食品(宮城県野区)の協力で1000本を製造。瓶のラベルに若林区六郷東部地区の追悼行事「鎮魂の花火」の写真をあしらった。売り上げは月6日開催の鎮魂の花火の運営費用とするほか、コロナ禍で奮闘する医療機関に寄付するという。参加した若林区の看護師安海也さん(23)は「震災から10年を前に、多くの人々が絆を思い出す契機になったらいい」と、絆サイダーの趣旨を説明した。

サイダーは340ミリ入りで1本150円。同区中央六郷の両市民センター、せんだい農業園芸センターなどで取り扱っている。



仙白園プロジェクト



ハクリン



ハクティー

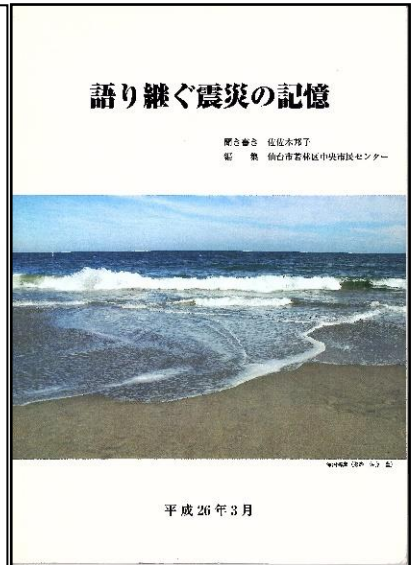
「仙白園プロジェクト・人」は、若者を中心に、仙台白菜などを畑で育てることを通して、様々な人たちと交流しながら、参加者の活動を社会・地域につなげることを目指しています。

12月1日「語り継ぐ震災の記憶」のPRと「仙台・絆サイダー」のPRのために、デートエフエムの「Hope for Miyagi」のラジオ収録に行ってきました。今年取り組んだ「語り継ぐ震災の記憶」映像化について、どのような思いからこの事業に取り組んだのか、映像化する中で大切にしてきたことなど、パーソナリティの板橋恵子さん（防災減災プロデューサー）とともに、話題にしながら収録していきました。

はじめは、3人とも（私も）緊張した面持ちで、収録に臨みましたが、話しているうちに、伝えたいことが溢れてきて、次から次と話がつながりました。特に印象に残っているのは、撮影に協力してくれた3人が、まず、東日本大震災時に経験したことを言葉にできたことです。「震災を経験はしているものの自分自身の経験と向き合うということをしては来なかった。けれど、今回の活動を通して、改めて大震災からの今を考えることができた事は、非常によかった。今後、こうした経験をもっと多くの人たちに伝えていけるような人になりたい。」と話したことは、今回の活動から、大きな学びを得ることができたと言え、担当者として、非常にうれしいことでした。これからも、3人の制作した動画により、より大きな教育効果が生まれることを強く願うばかりです。

収録の様子は、12月13日（日）デートエフエムの「Hope for Miyagi」の中で放送されます。ご家族お誘い合わせの上、お聞きいただけたらと思います。

お聞き逃しなく！
→ パーソナリティの板橋さんとパチリ！
サイダーもPRしてきました！



令和2年12月6日 仙台市若林区中央市民センター

仙白園プロジェクト人 通信No.90



ハクリン



ハクタイ

「仙白園プロジェクト・人」は、若者を中心に、仙台白菜などを畑で育てることを通して、様々な人たちと交流しながら、参加者の活動を社会・地域につなげることを目指しています。

12月6日に、六郷東部第6回「鎮魂の花火」がありました。

仙白園では、続けて活動してきた「仙台・絆サイダー」のPRと、集まった募金の一部を「わたしのふるさとプロジェクト」に寄贈するため、イベントに参加しました。

当日は、『3密』を回避するために、交流イベントや会場に集まっての花火の観覧を行わず、メンバーだけが集まって、これまでの取組を振り返る映像を見ました。仙白園の学生が「鎮魂の花火」を手伝うようになって、4年になるということも確認でき、自分たちの活動の歴史も感じることができました。テレビ局の取材があり、準備の時や花火の打ち上げの時に、メンバー同士ゆっくりと話す時間を取ることができませんでした。けれども、打ち上げ後の記念写真では、参加したメンバー全員が達成感からか、みんな笑顔でした。反省会でのサイダーの乾杯は、今まで頑張ってきた分、とってもおいしく感じました。

来年は、新型コロナウイルス感染症が落ち着き、地域の方々と笑顔で交流できる機会になってほしいと心から願うばかりです。



仙白園プロジェクト 通信No.91



ハクリン



ハクタイ

「仙白園プロジェクト・人」は、若者を中心に、仙台白菜などを畑で育てることを通して、様々な人たちと交流しながら、参加者の活動を社会・地域につなげることを目指しています。

12月12日に、仙白園・冬の収穫祭を行いました。9月に、チャイルドボランティアのみなさんにも手伝ってもらいました1粒2mmくらいの白菜の種から、約4kgの重さに生長した白菜を収穫しました。また、仙台地大根という品種の大根もあわせて収穫しました。チャボの子どもたちは、自分たちが育てた白菜ということで、収穫前から「大きい白菜をとるぞ！」と意気込んでいる子もいれば、「あんまり大きいと、3日くらい同じメニューになるから、小さいのがいい。」と遠慮がちな子もいました。今年最後の活動だということもあり、仙白園サポーターも応援に駆けつけてくれ、にぎやかに活動することができました。今年一年は、新型コロナウイルス感染防止のため、たくさん人が集まって活動することができなかつたので、今回元々計画していた白菜鍋のおふるまいができませんでした。仙白園メンバーの誰もが、「みんなで冬の収穫を味わわないと一年が終わった気がしないね。」と話し合いながら、今年の活動を締めくくりました。

来年は、みんなが笑顔で参加できるイベントをたくさん開くことができる穏やかな1年になってほしいと思います。



仙白園・「人」大根！？



令和2年12月12日 仙台市若林区中央市民センター

仙白園プロジェクト

発信No. 92



ハクリン

「仙白園プロジェクト・人」は、若者を中心に、仙台白菜などを畑で育てることを通して、様々な人たちと交流しながら、参加者の活動を社会・地域につなげることを目指しています。



ハクチャー

12月12日に、仙白園・ズームミーティング③を行いました。ミーティングでは、ここ1か月の若者事業の取組について、参加した学生のみなさんから感想をもらいながら話し合いを進めました。

大きくは、3つのテーマで話し合いました。

1つめは、サイダープロジェクト「アエルで会える！」について話し合いました。どのようにしたら「仙台・絆サイダー」をたくさんの人たちに知ってもらえるのかということで取り組んだアエルでの活動は、1日で38人の方にのべ100本のサイダーを提供することができました。ただ、みんなの予想では、もっとたくさんの方に声をかけてもらえ、たくさんの方にサイダーを提供できるのではないかと考えていただけに、期待とは違いましたが、「物を売ることの大変さを知ることができた。貴重な経験を知ることができたので、非常に良かった。」という感想と、もっと知ってもらうために「何が必要だったのか。考えなければならなかった。」という反省が上げられました。

2つめの「六郷東部鎮魂の花火」では、2週間で集めることができた10万円の募金を「わたしのふるさとプロジェクト」の代表に直接手渡すことができたので、「自分たちの活動で、喜んでもらったので、非常にうれしかった。」という感想が聞かれました。また、「例年は、夏のお祭りと冬の花火の両方でお手伝いをしていたのですが、来年は、みんなが笑顔で参加できるイベントのお手伝い如果能ければ、もっと活動を楽しむことができたと思うので残念だった。」という感想も聞かれました。

3つめの「今後の事業展開」については、今回サイダープロジェクトがますますうまくいったので、もう少し、取材活動や自分たちのアイデアを生かしたイベントづくりなどできるのではないかと話をしました。「具体的には、思いつく案はないけれど、みんなからたくさん案を出し合って決めていければいいのではないかと、今後の話し合いの方向性として、新しい取り組みに挑戦してみたいという意見が多く聞かれました。

こうした意見をもとに、さらに、来年の仙白園の活動をより盛り上げていければと思います。



令和3年3月7日 仙台市若林区中央市民センター



仙白園プロジェクト

発信No. 93



「仙白園プロジェクト・人」は、若者を中心に、仙台白菜などを畑で育てることを通して、様々な人たちと交流しながら、参加者の活動を社会・地域につなげることを目指しています。

3月7日に、社会教育実習からスタートして仙白園に参加してくれたみなさんによる「仙台防災未来フォーラム」での朗読劇「語り継ぐ震災の記憶」のPRが行われました。2021年3月11日で、東日本大震災から10年が過ぎるということで、朝早くからたくさんの方々が、イベント会場となった仙台国際センターに足を運んでくださいました。

約200名の方々が、ブースを訪れ、「語り継ぐ震災の記憶」の活動について耳を傾けて聞いてくれました。特に、印象に残っているのは、和歌山県から一人で、この防災フォーラムを見に来た学生さんでした。「和歌山では、これから南海トラフ地震が予想されている中で、自分たち学生にできることは何かないかと考え、仙台まで、このフォーラムで学びたいと思って来ました。」と話してくれました。「また、今回、同じ大学生で、自分たちにできる取り組みで参加している宮城教育大学の3名の方々の取り組みをもっと知りたいと思いました。」と、資料を見ながら、この取り組みについて、熱心にメモを取る姿が見られました。たいへん素晴らしいなど応援したくなる学生さんでした。

今回のフォーラムでは、若林区から朗読劇「語り継ぐ震災の記憶」のほか、七郷市民センターの「定点観察～今と未来をつなぐ～」、荒町市民センターの「地域みんなで防災に備えよう」、六郷市民センターの「わたしのふるさとプロジェクト」の3つが、市民センターにおける復興・防災への取り組みとして紹介されました。たくさんの方々に、関心を持ってもらえるよい機会となりました。今後も継続して取り組んでいくことができればと思います。

藤沢さん・横塚さん・鈴木さんには、半年間にわたる朗読劇「語り継ぐ震災の記憶」の取材から、動画の作成、そしてPRまでの活動に取り組んでいただきました。本当にありがとうございました。

この取り組みが、実を結び、未来の日本の安心・安全につながることを願わずにはられません。

